

同窓会だより

第 1 号
平成21年 3 月 1 日
鹿児島県立
宮之城農業高等学校
宮之城中央高等学校
薩摩中央高等学校
同窓会



ごあいさつ

三校同窓会会長

濱田 等

歴史と伝統のある母校、三校同窓会（宮之城農業高等学校・宮之城高等学校・薩摩中央高等学校）の初代会長にご選任をいただきました。もとより浅学非才、この大事なお役目を全うできるか危惧いたしているところでありますが、お引き受けさせていただきました以上は、本会の充実発展のために最善を尽くして参りたいと思います。三校を卒業された同窓の皆様のご支援・ご協力の程何卒宜しくお願いいたします。

私たちの母校の歴史は、学校の創立明治四十五年、薩摩郡立蚕業学校として設立認可から始まり、昭和の時代に入

和二十三年の学制改革により鹿児島県宮之城高等学校と改称（農業科・普通科を設置）、昭和三十一年には鹿児島県立宮之城高等学校と改称、昭和三十八年には農業科と普通科が分離、県立宮之城農業高等学校・県立宮之城高等学校と改称、平成十六年四月県立薩摩中央高等学校設立、平成十九年三月をもって宮之城農業高等学校・宮之城高等学校は閉校となり、今日までの九十七年であります。この長きにわたる歴史の変遷のなかで当地域の産業・文化の向上に大きく貢献し、二万千人の卒業生を輩出、全国各地に於いて活躍していただき、母校の名は永遠に消えることなく轟き

わたつておりますことは、その歴史を物語るものでありましょう。

宮之城農業高等学校同窓会・宮之城高等学校同窓会におかれましては、両校の閉校後の同窓会の存続についての話し合いの結果、両校同窓会の歴史を新しい学校に継承していくべきとの方針のもとに対策が講じられ、両校同窓会と薩摩中央高等学校PTAの皆さんとの協議の結果、薩摩中央高等学校同窓会として一人歩きできるまでの間「三校同窓会」（宮之城農業高等学校・宮之城高等学校・薩摩中央高等学校）として活動を展開しよう、平成二十年二月十六日開会の設立総会により組織体制・会則・役員等を決

定し、薩摩中央高等学校の吹奏楽部のみなさんによって宮之城高等学校校歌・宮之城農業高等学校校歌・薩摩中央高等学校校歌を奏でいただき、すばらしい雰囲気なかで総会は盛会に行われ、「三校同窓会」は順調に設立しました。同窓会の目的は「会員相互の連絡を密にし、親睦を図り、母校の発展に寄与すること」とあります。したがって卒業時に会費を払い込めば終身会員となるシステムをとっております。

会員相互の連絡・連携を密に行うために、町内・町外に同窓会支部（たとえば関東支部・関西支部・鹿児島支部・薩摩川内支部）を設置していきますので、支部における活発な活動が展開され、会員同士の目的に沿った活動が行われることを望むところであります。

長い歴史のなかで、母校を巣立つてゆかれ、世のため人のために尽くしてください。多くの先輩があります。あと数年しますと百年という大きな節目の年がやってきます。この年にあたり、百周年を祝う記念の行事を行い、先輩方や同僚が共に築いてきた母校の歴史・足跡を振り返り、新しい時代へ向かって母校が大きく発展してゆくためのきっかけになればと思うところであります。会員の皆様如何でしょうか。ご意見を賜ればありがたいです。

「三校同窓会」今始まったばかりであります。新体制設立当初でありましたので、役員には、三校から今までに同窓会に関係された方々で担当することになりました。そして、各支部の支部長には宮高・宮農高の代表の方が就任されています。

近い将来、いずれ会の充実発展の方向がみえてきた時点で「会の名称・組織の改変」等行うことになると思うところであります。我々同窓会の活動がこれから先、大きく羽ばたく母校・薩摩中央高等学校の発展に寄与できることを願い、会員の皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。同窓会だより創刊号発刊に当たつての挨拶とさせていただきます。



両校のよき伝統を 引き継いで



薩摩中央高等学校長
内 四男

はじめに、昨年の二月に、宮之城農業高等学校・宮之城高等学校の関係者の方々の御尽力により「三校同窓会設立総会」が開催され、再編整備された地域で最初の同窓会が一つになることができました。改めまして、心から感謝申し上げますとともに、三校同窓会の皆様におかれましてはますます御健勝のことと存じます。

本校は、御承知のとおり、両校の学科をそのまま引き継ぎ普通科・生物生産科・農業工学科・福祉科という四学科があり、職員同士お互いに切磋琢磨してそれぞれの学科の特徴を生かしつつ、実績を上げようと努力しております。第1期生の輝かしい進路面の実績を引き継ぐべく職員一丸となって努力しております。現段階では、国公立大学に二

名合格という厳しい現実にあります。これから一般入試で挽回すべく頑張っているところです。また、農業大学校には三名進学します。就職では、地元の日本特殊陶業に七名が内定し希望者の内定率は100%で、この不況下、昨年を上回っています。

部活動は、開校四年目となり各部とも地道に活動を継続し、着実に成果を上げつつあります。開校以来、全国大会まで出場したのは放送部、九州大会まで出場したのは水泳部、吹奏楽部、ボクシング部です。また、農業クラブでは、各種鑑定競技の部で、全国・九州大会に出場しています。

なお、ラグビーの町と言われている中で、部員不足でラグビー部の活動がやや低調ですが、専門でもある顧問が現在頑張っていますので、もう少し見守っていただきたいと思っています。今後とも、地域の御協力をいただきながら部活動を一層活発にし、学校の活性化に更につなげていきたいと思っています。

また、「地域と一体化し、地域とともに発展する学校」を目指すことを教育目標の一つとしています。生物生産科による屋地・虎居地区での花ブ

ランターの贈呈・定期的な入替、農業クラブによる宮之城ロータリークラブを通じた相模原ロータリークラブへの芋苗贈呈、Sクラブによる募金活動、生徒会・農業クラブ等による春・秋の交通安全キャンペーン、ボランティアアクラブによるボランティア活動、吹奏楽部やダンス部による地域の行事への積極的な参加、農業科の初市・暮れ市への参加等、可能な限り参加しています。

終わりに、薩摩中央高等学校職員一同は、開校当初からの基本理念に従って、校訓の「自律・創造・共生」を基に、日々の教育活動に誠心誠意、努力して参りますので、今後とも皆様方の御支援・御協力を心よりお願い申し上げます。



高橋 斉昭
(第1回生 昭和26年卒)

「光陰は矢の如し」という諺がございますが、年の経つことは誠に早いもので卒業以来早五十七年が過ぎました。拘て当時の事を振り返ってみ

ますと、走馬燈が廻る様に色々な思い出が浮かんでまいります。

私達は敗戦と同時にマッカーサーラインにより教育制度が変わり六・三・三制がしかれ、昭和二十二年に旧宮之城農蚕学校が高等学校に昇格、普通科が設置され、昭和二十三年新一年生として入学しました。当時の生徒達は旧制中、新制中並びに海外からの引揚者達の集まりで、男女一〇〇名・二クラスでスタートいたしました。

校舎は旧農蚕学校女子部の木造二階建の教室で、一階は調理室・裁縫室、二階二部屋が教室で階段はギシギシ音がする状態でした。二年生の二学期に現在の聖母幼稚園の場所にH型の木造平屋校舎が建築され、併せて校舎の横の畠や田圃を改良して広いグラウンドが出来、又プールが建築されましたが、何れにせよ私達生徒は、体育の時間を返上して校舎造りに地掘きの加勢、グラウンド・プール造りにはスコップを持って掘り起こす奉仕作業を行ったものでした。

又、勉強に関しましては正に程度の高い教科書が採用され、特に英語は「ワールドスローイングリッシュ」という

名稱の書物でした。尚、スポーツクラブの活動にしましては既に相撲部バレー部テニス部はございましたが、私達は野球部ラグビー部陸上部水泳部を創設し、各々各種の大会で活躍し、其の後水泳部はシドニーオリンピック選手を輩出して居ります。又、三年生最後の運動会は農業科対普通科の対抗試合を行い、一切全て生徒会で運営し大成功裡に終了いたしました。

斯様に私たち第一回生は、戦後食糧難、物資不足の時代に育ち相まみえながら三年間を通じてよく頑張りがついて参りました。そして進学就職に素晴らしい成績を修めていると確信して居ります。

其の後生徒数が増えてまいり、昭和三十八年に科別に二分し宮之城農業高校宮之城高校と誕生しましたが、平成に入り少子化の影響を受け再度両校が統合することになり、平成十七年にスタートし校名が薩摩中央高校と改称され既に第一回卒業生も昨年誕生して居ります。斯した中で同窓会が三校の形で残り、急遽三校同窓会設立を立ち上げ平成二十年二月に新しい同窓会が設立されました。私達の学校は校名こそ改稱

されましたが歴史と伝統のある素晴らしい学校であると自負してやみません。今後の益々のご発展を祈念しつつ、筆を止めさせていただきます。

戦中戦後激動の 中で学ぶ



三浦 哲郎

昭和五年生まれ農高一期生の私にとって、高校時代の思い出は、戦中戦後激動の中で学び、大変革を体験したことでしょう。ある意味で今の世情に似ているような気がします。

思い出深いもの三つ。まず、太平洋戦争終戦の年（昭和二十年）四月旧制県立宮之城農蚕学校に入学、七月には母校や宮之城の町が米軍機グラマン戦闘機の機銃掃射を受けました。目撃しました。十五歳の恐怖の体験でした。

勉強したいと

全校ストライキ

思い出の二 戦後教育の刷新が叫ばれ、一時期混乱しました。実習が続き、もつと勉強したいと、二十二年秋、全校生徒によるストライキが起りました。一週間後、同窓会の方や父兄も集まり授業を充実することで決着しました。

その三 戦後、食糧不足でいつもおなかがいっていました。卒業の段階で、新制高校に進む者、そのまま旧制農蚕学校で卒業する者とに分かれました。約半数が新制高校三年生に進みました。就職難も一つの原因でありました。平成のリストラと重ね合わせ、今の高校生も同じような境遇にあるように思われてなりません。

海外で活躍する

同窓生の情報も

昭和二十九年宮之城町役場の中に同窓会支部が出来ました。同期生会も恩師の紺屋園廣先生・山下千本先生らを囲み開きました。平成七年からは定期的に開催し、昨年は二十四名の出席。（百十二名中確認できた死亡者三十六名）健康が第一の話題になりました。

生徒の大半は祁答院十ヶ町村出身でした。今歴史を超え

薩摩中央高校となり、さつま町一つになりました。同窓会が充実し、支部や同期会のユース、国内の文人起業家などは勿論、今、グローバルな時代です、海外で活躍している同窓生の状況もホームページなどで情報提供していただけたら嬉しい。

山陰の農家と 現在も続く交流

副会長 福留 國光

昭和二十七年宮之城高校農業科に入学し、三ヶ年間十数キロを自転車で通学し、普通作、園芸作物、茶園、桑園等の管理実習や、畜産では、和牛、乳牛、養豚、養鶏等の飼育に汗を流し取り組んでいました。

一、二年生時は園芸部に席を置き、色々な作物を栽培しホームプロジェクトで試作したものです。二年生の後半、全国共進会で上位入賞した和牛「たかいね号」が学校に導入され、堂々としたその体形に圧倒され感銘を受けた記憶があります。その「たかいね号」との出会いによって私のその後の人生、畜産と係わる

ことになろうとは。三年生では畜産部に入る事になりました。当時の修学旅行は実習旅行の形態で行われ、それぞれ個人の得意、希望する先進地に行くことになりました。静岡県、岡山県、千葉県等に一週間農家に宿泊し、実習をし、その後東京に集合、という旅行が実施されました。

私は、和牛の先進地であった鳥取県大山町の農家に、先輩の薦めもあり二人で行くことになりました。四頭飼育されている飼料刈りに大八車を引き押して山深くまで草刈に精を出す事でした。実習の中日に大山町に行っている八人と引率の先生と地域を研修する事になり、鳥取県畜産試験場に行きました。他県からも入所できるとの事でしたので、高校を卒業したら是非ここで勉強したいと思いました。当時県内で供用されている種雄牛の80%が鳥取県産であり、繁殖牛の素牛となる仔牛、育成牛も盛んに導入されていました。

卒業後すぐ鳥取県畜産試験場に入所する事になり、前年実習に行った大山町の農家の父さんが父親代わりとなり、色々お世話になり、親切に子供同様に付き合いをしていた

できました。試験場での一ヶ年間和牛に関する飼育管理、技術の習得等に励み、充実した期間となりました。

帰郷後それから五十五年にもなりますが、先程申し上げた先輩と共々、現在までお互い子供達の婚礼や、家族との行き来や特産物等を送ったり、大山町は父さんは亡くなっておられますが、息子さん、孫さん方との交流は現在も行っています。

幼い時代からの付き合い、友達も大事にしていますが、やはり高校生活の三ヶ年の友達は大人の友情として温めていきたいものです。今まで交流が出来た事は私の財産そして今後の糧となる事とされます。



新入会員です

二期生として

普通科3年
高下 亜弓

私たちは薩摩中央高校の第二期生として入学しました。宮之城農業高等学校・宮之城高等学校、そして、本校第一期生が築いてきた伝統を引継ぎ、今またその伝統を後輩たちへ伝えようとしています。私たちはこれまで新たな一歩を踏み出すために、保護者や先生方、先輩方に見守られながら「地域に信頼される薩摩中央高校生」を目指し、努力してきました。その中で、たくさんの仲間たちと共に、よい思い出を作ること出来ました。

たとえば、平成十七年度の九月十日に行われた、宮之城農業高等学校と宮之城高等学校、薩摩中央高等学校三校合同の体育祭もその一つです。私たちは一年生でまだ分からないことばかりでしたが、各

校の生徒会を中心に先輩方の助けを借り、体育祭を無事成功させることが出来ました。私たちにとっては高校生活初の、そして宮之城農業高等学校と宮之城高等学校の先輩たちにとっては最後の体育祭として最高のものとなりました。翌年からは全ての行事を薩摩中央高等学校だけで行うこととなり、多少の不安もありましたが、生徒一人一人が主体となって盛り上げることが出来ました。

宮之城農業高等学校の専門分野での資格取得、宮之城高等学校の進学に向けての取り組みを手本として、第一期生とともに薩摩中央高等学校の土台を作ってきました。薩摩中央高等学校は、確かに両校とは違う学校です。しかし、しっかりと両校の伝統を受け継いでいるということも、実感しています。私たち二期生は、入学当時一期生と比べられたこともありましたが、高校生活を通して、薩摩中央高校生として、いま、誇りを持って卒業することが出来ます。これからは私たちの先輩たちが、それぞれの目標に向かって手を取り合い、薩摩中央高等学校を築いていくってくれることを、私たち二期生一同期

待っています。

卒業を迎えて

生物生産科3年
砂子田 梢

私は、薩摩中央高等学校の第二期生として平成十七年に入学しました。中学校と違って人数も多く、環境も変化し高校生活が楽しみな反面、不安を抱きながら、薩摩中央高等学校の門をくぐりました。宮之城農業高等学校と宮之城高校から受け継いだ伝統と、第一期生の先輩方が新しく作り上げた伝統を、私たち第二期生が引き継ぐという大切な役目も受けました。私たちの手で新しい事に挑戦し、地域に貢献することも多かったと思います。

私の高校生活での思い出は、体育祭のことです。一年次に行われた宮之城農業高等学校と宮之城高校、薩摩中央高等学校の三校合同体育祭です。初めての体験で楽しい時間はあっという間に過ぎました。三校合同の体育祭は、それぞれの高校の良い所を出し合え

仲もより深まったと思います。また二年次の体育祭では、初めて三学年がそろい、薩摩中央高等学校としての体育祭を成功させることができました。私は、高校生活の中で全く違う二つの体育祭に参加することができました。

薩摩中央高等学校に入学してからは、たくさんの良い思い出と友達が増えました。充実した高校生活を送り、一日を大切にしようという気持ちが高まりました。最初は、不安なこともたくさんありましたが、先輩方を見て高校生活にも慣れ、困難も友達同士で助け支え合ってきました。友達とは、私にとってとても大きな存在となりました。今の私がいるのは周りのみんなのおかげだと感謝しています。

これから、自分の行動に責任を持ち、大人へ少し近づいていかなければなりません。今までのように親にばかり頼らず自立し、不安な世の中だからこそ、今が頑張る時です。四月から社会人になるので、今からできる事はしておき、社会貢献に努めたいです。私は薩摩中央高等学校に入学してよかったと心から思います。これから先、色々な人に出会い大変な事もあると

思います。しかし、何事も前向きな気持ちを忘れず、一生懸命頑張りたいです。

高校生活を

思い返して

H19年度卒業 普通科

一期生 入角 順平

十五歳の春、私は第一期生として薩摩中央高校に入学しました。それから三度の体育祭を体験し、その他様々な行事に参加しているうちにいつの間にか卒業の日を迎えていました。その三年間の中には勉強や部活動に疲れたり、友達と喧嘩したり、先生方に叱られたこともたくさんありました。しかし今となって思い出されるのは、クラスの皆と昼休みに教室で笑い合っていたことや、体育祭で応援に声を囁らしたこと、文化祭で夜遅くまで残って準備をしていたことなど、楽しかったことやうれしかったことばかりです。中でも三年生の時にあった最後のクラスマッチでは、二週間ほど前から皆で特訓してついに優勝することも出来ました。この時の感動や興奮は、一生忘れられない思い出になったと思っています。

そのすぐ後に卒業式があり、私は薩摩中央高校を卒業しました。

そして今、私は鹿児島大学に通って勉学に励んでいます。大学生になってみて一番驚いたのは、その自由さです。授業では、その時間割を自分でつくり、自分の学びたいことを自由に選んで学ぶことが出来ます。行事なども学生が自主的に作ることが出来、夏休みや春休みはその気になれば何だってすることが出来る。少なくともこの期間があります。私はその自由の中で、サークルにも入ってとても楽しい毎日を過ごしています。しかし、自由ということは自己責任ということも意味していると思います。勉強をするのもしないもの、資格をとるのもとらないもの、就職活動をするのもしないもの、学生の自由なものです。勉強せずに遊んでいても、その間違いに気づくのは留年してからのことでしょう。厳しく私を指導し、案じてくれた高校までの先生方のような人はもういないのです。だから私は、薩摩中央高校で学んだ「自律」の心を活かして自分を律し、学ぶときは学び、遊ぶときは遊び、有意義な学生生活を送ることで自分

の未来をより良く「創造」できるように頑張りたいと思います。

今、薩摩中央高校に通っている皆さんはどのような生活を送っているのでしょうか。受験や就職に向けて努力している方、それが決まってほっと安堵している方、そんなのはまだ先のことだとのんびり生活している方、部活に打ち込んでいる方など、様々な方がいると思います。そこでそんな皆さんに学校生活で一番大切なことをアドバイスしたいと思います。それは「共生」の心を大切にして欲しいということです。つまり、学校生活の中でたくさんの信頼できる友達をつくって欲しいのです。楽しい学校行事などは友達がいれば楽しさが倍増しますし、つらい勉強なども友達と励まし合えば頑張れます。私自身も、友達のおかげで学校生活はすごく楽しくなったと思います。さらに、入試の時も友達からもらった言葉やお守りなどにどれだけ励まされたかわかりません。そして友達は、高校を卒業してからも大切な存在になります。同じ大学に來ている高校からの友達とは、今もよく遊んだり話をしたりしていますし、遠くへ行った

友達と久しぶりに再会したときはすごく楽しく昔話をしています。私は短かった高校三年間で得た一番の宝物は、この友達だと思っています。薩摩中央高校の在校生の皆さんには、残された高校生活を楽しく、有意義なものにして欲しいと願っています。そして、私達一期生から始まった薩摩中央高校の歴史をすばらしいものにしていくてください。

薩摩中央高校の現在



副会長
前野 浩司

薩摩中央高校開校以来第二期生の卒業と五年目を迎え、より充実した地域に受け入れられ愛される学校を目指し、学校関係者保護者一丸となって努力している毎日です。

昨年の一期生の進学実績に続けと、それぞれ目標の大学に向けて登竜門となる大学入試センター試験のため、正月休み返上で頑張りました。それぞれが目標達成できることを願っています。また、就職

についても社会情勢、雇用情勢のたいへん厳しい中で多くの内定をいただいているところです。本校を巣立つ生徒の活躍を期待しています。

本校の環境も改善されました。まず、古かった学生寮も新しく建設され、地域外からの生徒もいっそう多くなり学校の活性化がはかれると思います。次に学校への道路も広く整備され登下校の交通も便利になり、喜んでいくところです。

最後に、本校の伝統はこれから築かれていきますが、前身の両校の伝統を引き継ぎ、新しい伝統を築き上げていく生徒のために、三校同窓会も設立されて充実してきました。本校の発展のため地域の皆様方の御協力、御支援に深く感謝いたしております。

地域に根付く高校として「自律・創造・共生」を基に薩摩中央高等学校の先生方、保護者の方々を心と心をつなぐ、出来る小さなことから取り組み続け、薩摩中央高校の素晴らしい伝統として築いていきたいと思っています。今後とも皆様方の御支援よろしくお願い申し上げます。

平成20年度

三校同窓会

総会2022

三校同窓会



副会長
迫田 公秀

三校同窓会を開くにあたり、三校の係の方、又薩摩中央高等学校の先生方の多大な御尽力によるものと感謝いたします。当日は吹奏楽部の校歌の演奏には大変感激いたしました。宮高・農高の伝統を脈脈と感じうれしく思いました。この地区に普通科を中心としての高等学校は本校だけになりました。学力向上、地域の勉学の中心としての位置をしっかりと築いていくって欲しいと思いますし、期待します。同窓会としても全面的に協力できる体制を早く整えてパツクアップしていきたいと思っています。先生方のたゆまない叱咤と生徒達の一層の努力向上をお願いして、新しい薩摩中央高等学校の歴史を創り築



内薩摩中央高等学校長あいさつ



濱田会長あいさつ



いていかれる事をお願いしま
す。
同窓会当日の写真掲載し
ます。(平成二十年八月二十
四日、さつま町のひかり別館
にて行われた三校同窓会総会
の様子です。)



乾杯(宮之脇睦男様)

薩摩中央高校吹奏楽部による校歌演奏
(三校分披露されました)

協議のようす

宮高関東支部長
松坂 繁毅

平成二十年関東支部 同窓会報告



万歳三唱



薩摩中央高校1期生も参加しました

三校同窓会報の発刊おめで
とうございます。平成十六年
度に宮農高・宮高の廃止と新
設「薩摩中央高」の設立の報
に接し、関東支部に於いては、
夫々の同窓会開催を二校同窓
会として開催して五回目を迎
えていました。薩中高の一回生
卒業を受け、三校同窓会関東
支部と名称変更を致しました。
関東支部総会は、例年七月
の第一土曜或いは第一日曜の
十二時より開催を決めていま
す。本年度も七月五日(土)
に東京霞ヶ関ビル三十三階の
眺望絶景のホールで宮農高二
十名、宮高六十五名の会員と
本部より濱田等会長、迫田公
秀副会長、それに薩摩中央高
より内四男校長先生の御出席
を戴き、賑やかに開催出来ま
した。校長先生からは在校生
の部活動を含めた学校生活の
様子や、第一回生の卒業生の
進路先の事などお話を戴きま
した。

濱田会長、迫田副会長から
は、三校同窓会設立迄の、準
備委員会などの御苦労話を伺
いました。設立に御尽力され
ました皆様に敬意を表します。
懇親会では本校より戴いた豚
味噌をメインに故郷特産のイ
モ飴や漬物等の詰め合わせを、
ビンゴゲームで持ち帰って貰
います。

編集後記

宮農高と宮高の閉校から一
年少し寂しさを感じる頃三校
同窓会が誕生、薩中高の一期
生が学舎を巣立ってまた早一
年。刻々と歴史は積み重ねら
れていきます。創刊号いかが
でしょう。御多忙の中寄稿
くださった皆様に厚く御礼申
上げます。

支部組織は幹事不足の為に
弱小ではありますが、宮農
高・宮高卒業生を母体として、
強い絆を持って役員・会員共
々に会の運営と発展に尽力致
します。一人でも多くの参加
者を求め、本部のご指導をお
願ひし、本部同窓会並びに母
校の発展を願ひ、支部役員一
同頑張つて参ります

いました。今回は鹿児島県東
京事務所より「ふるさと納
税」についての話が有り、N
HKのテレビを帯同され、後
日総会の様子が全国放送され
ました。